

平成30年（2018年）10月5日
建設委員会資料
都市基盤部公園担当

哲学堂公園再生整備の見直しについて

哲学堂公園再生整備について、以下のとおり見直しを検討する。

1 現行計画

哲学堂公園は、「(1) 哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針（平成27年（2015年）6月）別添資料1」、「(2) 哲学堂公園及び哲学堂公園周辺都市観光拠点整備計画（平成29年（2017年）3月）別添資料2」及び「(3) 哲学堂公園再生整備基本計画（平成30年（2018年）1月）別添資料3」により、都市観光拠点の核として整備する計画である。

2 見直しの考え方

(1) 方向性

哲学堂公園について、インバウンドを目指した周辺エリアの整備と施設整備を優先とした区の考え方を改め、『歴史文化を守り、区民や来街者が憩い楽しむ利活用』を目指した整備とする。

この考え方により、現行の「哲学堂公園再生整備基本計画」を見直し、再生整備の目標を「哲学堂公園の歴史・背景を汲んだ、哲学堂が持つ文化財としての本来的価値を高めるための整備」とし、井上円了没後100年となる平成31年（2019年）の国名勝指定認可を目指す。

学習展示施設の整備は、規模の縮小を前提とし、施設の配置や整備時期を変更する。また、運動施設整備（野球場改修）は、利用実態等から、現行の施設規模の範囲とする。

(2) 現行計画の見直し

「哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針」及び「哲学堂公園及び哲学堂公園周辺都市観光拠点整備計画」における、哲学堂公園整備計画以外の事項に関しては、新たに策定する中野区基本計画や都市計画マスタープラン等により検討を進めることとする。

(3) 名勝指定獲得及び整備スケジュール

名勝指定獲得後は、大規模な工事について文化庁との協議が必要となり、整備工事の着手は、指定完了後とする。

3 今後のスケジュール

平成30年度（2018年度）

10月 国名勝指定獲得への意見具申書等の東京都との協議開始
「見直しの方向性」により関係機関調整

平成31年度（2019年度）

7月 国名勝指定獲得への意見具申書提出・文化庁確認
「新たな整備基本計画案」策定・区民説明会等開催

平成32年度（2020年度）

「整備基本設計」策定

平成33年度（2021年度）以降

「整備実施設計」策定、整備工事着手

哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針

1. 策定にあたって

(1) 目的

東京都の名勝の哲学堂公園と国の登録有形文化財の旧野方配水塔の歴史的・文化的価値を高め、両近代化遺産の有する風致と調和する良好な周辺環境の形成を図り、これらを核とする歴史・文化を活かした都市観光拠点の形成を図ることを目的とする。

(2) 計画対象区域

対象区域	検討事項
哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区	哲学堂公園・旧野方配水塔の風致と調和し魅力を高める都市整備・まちづくり
区北部地域における都市観光拠点形成区域	中野駅から哲学堂公園・旧野方配水塔に至る動線を中心としてまち歩き回遊する都市観光客の誘致を図るための取り組み

(3) 計画期間

平成27年度(2015年度)から平成36年度(2024年度)までの10年間。



2. 整備の目標

- 「中野区北部地域における都市観光拠点」としてのコンセプトを明確にしつつ、哲学堂公園・旧野方配水塔の有する「近代化遺産」としての歴史的・文化的価値を保存・継承しさらに一層磨き、それらと調和した風致、景観を周辺において形成し、まちの魅力を高める。
- 来訪者が中野駅等から哲学堂公園・旧野方配水塔や他の観光資源に向けて楽しく快適に回遊できるようにまち歩きルートやその周辺環境を整備する。
- 魅力を満喫できる体験の提供やイベントの企画に取り組むとともに、積極的に情報発信して、国内外から集客を図る。

3. 整備の基本方針

哲学堂公園・みずのとう公園	・区北部地域の都市観光拠点の核として保存、修復し、それらの価値を一層磨く。 ・歴史的・文化的価値をわかりやすく伝える工夫を講じる。
	・歴史的・文化的遺産を活かした特徴のある都市公園として再整備する。
	・哲学堂公園スポーツ施設の、野球場防球ネットの高さを高くする付け替えや老朽化に対応した再整備を行う。
公園周辺の土地利用・建物、景観	・良好な住宅地としての利用を維持しつつ、これと調和する、住民や来訪者の利便に供する商業施設等の立地を幹線道路沿道において図る。 ・哲学堂公園・旧野方配水塔の有する風致と調和した佇まい、景観を保全・形成する。
回遊ルート	・両公園や周辺の観光資源、駅と結ぶ道路を安全に歩行・散策できる通りに再整備する。
魅力構築と情報発信	・都市観光拠点としてのコンセプトや魅力化、外客来訪を含めた都市観光の集客拡大に向けた戦略を構築する。 ・より多くの人に哲学堂公園・旧野方配水塔の価値、魅力を知らせ訪れてもらうための、国内外に対する積極的な情報発信を推進する。
協働による整備推進	・地区のまちづくりの考え方を関係するすべての主体が共有する。 ・関係主体が協働して地区の魅力向上、来訪者のおもてなしに取り組む。

4. 哲学堂公園・みずのとう公園の保存・整備計画

(1) 哲学堂公園

- 1) 文化財の保存・改修・魅力化
 - ・哲学堂77場の古建築、構造物の保存・改修等により、歴史的・文化的価値を一層磨く。
 - ・四聖堂、宇宙館、絶対城を優先して修復し、髑髏庵、鬼神窟、六賢台、無尽蔵も順次修復を行う。

2) 歴史的・文化的価値の解説・情報提供

- ・哲学堂の歴史的・文化的価値と魅力をより広く周知するため、井上円了博士の経歴や、哲学のわが国への紹介など近代化に果たした業績等をわかりやすく見せる解説案内を整備する。
- ・ボランティアガイドの強化・人材育成を図るとともに、そのPR周知をより強力に展開する。

3) 体験学習施設の整備

- ・新設する体験学習施設は、哲学堂77場と調和したデザインとし、哲学堂に関する講演・学習会を開催したり、伝統技能・哲学修養の体験コース等の文化体験の機会を提供したりするとともに、井上円了博士の業績や哲学堂に関する解説ビデオ放映や充実した展示を行うことにより、哲学堂77場や円了哲学への理解増進、わが国の近代化の過程の一端を学べる文化交流の拠点としての機能を担う。

4) 広場・園路等の再整備

- ・時空岡は古建築物群と調和し、哲学の時空間を表した広場として再整備する。
- ・園路は、落ち着いた雰囲気、歴史的風致を壊さない形態で、バリアフリー化、再整備を行う。
- ・繁茂し過ぎている植栽は、適宜伐採、剪定等により再整備する。時空岡のアカマツや斜面地の落葉広葉樹林等、往時の明るい樹林景観に戻す。
- ・管理事務所棟の建替え、野球場防球ネットの付け替え、野球場・庭球場の照明設備の付け替え等を行う。

(2) みずのとう公園・旧野方配水塔

- ・貴重な近代土木遺産として、また、地域のシンボルとして保存・改修し、次代に継承する。
- ・周囲からのアイストップ、ランドマークとしてのシンボル性を高め、より魅力ある眺望とするために、ライトアップ設備を設置する。
- ・公園として機能の充実を図るため、南側に隣接する東京都水道局用地を活用した拡張、再整備を図る。
- ・遊具、ゲートボールコート、休憩施設、植栽を再整備する



5. 土地利用・建築物及び景観形成計画

(1) 土地利用計画

- ・今後共住宅利用を基本とし良好な土地利用、歴史的資源と調和のとれた落ち着いた住環境を維持する。
- ・新青梅街道、中野通りの沿道は、地域の日常生活、来訪者の利便に供する、周辺の良い住宅地と調和した飲食店や物販店、生活サービス施設、事業所サービス施設等が複合した土地利用を形成する。

(2) 建築物・景観整備計画

- ・地区の建物は、哲学堂公園・旧野方配水塔等の歴史的・文化的資源と調和し落ち着いた佇まいと景観を維持するように配慮した用途、外観とする。
- ・哲学堂公園や旧野方配水塔、蓮華寺、北野神社等の景観資源を活かし、それらの風致と調和した街並み、佇まい、景観の維持・形成を図る。
- ・哲学堂公園やみずのとう公園、江古田公園の樹木や、中野通り・新青梅街道の桜並木をはじめとした豊かな緑と調和した、落ち着きのある景観の形成を図る。
- ・ランドマークとして地域のシンボルとなっている旧野方配水塔の、中野通り南側からの眺望等を保全できるように周囲の建物の高さ・スカイライン等を配慮する。
- ・建築物の意匠形態は周辺の建築物や景観との調和を図り、色彩は低彩度を基調とした落ち着きのあるものとする。景観を阻害する要素の改善を図る。
- ・敷地内は道路沿いの緑化、壁面緑化、屋上緑化を行い、緑の創出に努める。

(1) まち歩き回遊ルート

- ・区北部地域における都市観光のアクセス拠点として中野駅を、中核都市観光資源として哲学堂公園・旧野方配水塔を位置づけ、それらを結ぶまち歩き回遊ルート＝「歴史・文化の回廊」を設定する。
- ・両公園及び周辺観光資源を結ぶ道路やそれらと鉄道駅を結ぶ道路について、歩道付き路線は歩行者空間の改善整備、桜並木等の街路樹の保全と必要に応じた植え替え等を行うとともに、歩車道未分離の道路の歩車共存道路化、減速運転を促すカラー舗装等の処理を行い、安全・快適かつ楽しくまち歩きすることができる経路を整備する。

（２）案内誘導サインの設置

- ・まち歩き回遊ルート上に、統一した魅力的デザインの来訪者を導き案内する案内誘導サインを設置する。
- ・案内誘導サインは主軸上の線状配置に加えて主軸から各施設へ導く分岐点に配置する。具体的には、まち歩きを開始する地点（鉄道駅前等）や、まち歩き回遊ルートの中間点や分岐点などに設置する。
- ・設置空間としては、ルート上の公共用地（道路、公園）や区有施設用地を基本とし、必要に応じて、東京都、鉄道事業者、神社仏閣等の協力を得て設置を図る。
- ・まち歩きを誘うために地図等を用いてその周辺の状況を示す「案内サイン」と、目的の場所へ誘導するため矢印等で方向を示す「誘導サイン」を基本として設置を考える。
- ・グローバル化に対応するため、多言語表記やピクトグラムを活用したデザインとする。



7. 都市観光資源研磨・情報発信計画

ハード整備と同時に、外客も含めて広域的に観光客の誘致を図るために都市観光拠点としての魅力を高め、さらに、その魅力を広域的に情報発信し誘客するソフト政策の取り組みを強力に展開していく。

（１）都市観光資源としての魅力向上による集客力強化

- ・中野区北部における歴史・文化を活かした都市観光拠点として、全体が共鳴し合って魅力を発信する、これからの時代にふさわしい「コンセプト」を明確にし「観光資源の物語化」を図る。
- ・歴史・文化に「ふれる、見る、学ぶ」だけでなく、伝統技能の体験コース等の「体験する」、「食文化を楽しむ」、「エンターテインメントに興じる」など複合的な魅力を提供する。
- ・哲学堂をわかりやすく案内できる「哲学堂ボランティアガイド」やまち歩きを案内する「中野まち歩きボランティアガイド」の育成、活用を進める。
- ・地域の商店や住民、事業所が観光客に優しく接する「おもてなし活動」、「ホスピタリティ向上」を推進する。
- ・民間による哲学堂や旧野方配水塔関連のグッズ、観光商品の開発、販売の誘導を行う。
- ・北部地域における歴史・文化を生かした都市観光拠点の魅力を発揮できるような観光ルート、お勧めコース、回遊ルートの具体化を図る。

(2) 広域的な情報発信

- ・外客誘致を含めた集客のためのPR戦略を構築する。
- ・より多くの人に哲学堂公園・旧野方配水塔の価値、魅力を知らせ訪れてもらうための、国内外に対する積極的な情報発信を展開する。
- ・哲学堂公園・旧野方配水塔等の魅力を知ってもらい、来訪・散策を誘うために、多言語によるPRパンフレット、まち歩きガイドマップを新たに作成し・配布する。

- ・中野区ホームページ・まるっと中野・FacebookによるPR、SNSを活用した世界への情報発信を展開する。（多言語による情報発信）
- ・広域的に情報発信し集客するイベントを区内外で積極的に開催する。（MICEの誘致、なかのまちめぐり博覧会など既往のイベントに併せたPRの展開、両公園と歴史民俗資料館との共同イベントの企画、区外での周知PR等）
- ・また、紹介番組・記事、ロケーション撮影等のテレビ・映画や雑誌などマスメディアへの露出機会の積極的開拓により、広域的な情報発信に努める。

8. 協働による整備推進

- ・歴史・文化資源は公共物以外に民間所有物や地域の民俗芸能など多岐にわたり、それらが連携して都市観光拠点として魅力を発揮するため、あるいは、温かいホスピタリティに基づき来訪者を心地良くもてなすために、公共、観光資源の所有者・管理者、商業者・商店会、事業者、地域の住民・町会など地域で活動する多様な主体が協働して取り組む。
- ・そのため、関係主体が、地区の将来像、まちづくりのあり方等について認識の共有化を図る。
- ・地区整備を実現に向けた各主体の具体的な取り組み事項やまちづくりルールを検討する。

9. 整備プログラム

整備項目	整備内容（【 】は所管する担当）	前期 2015～2019	後期 2020～2024
哲学堂公園 の整備	・四聖堂等時空岡の古建築物修復【公園、施設担当】 ・その他古建築物、構造物等修復【公園、施設担当】		
	・管理棟、体験学習施設の設計・設置【公園、施設担当】 ・園路・広場等の再整備【公園担当】		
	・スポーツ施設改修【スポーツ担当】		
	・ボランティアガイド制度強化・人材育成【公園担当】 ・魅力的な体験学習の提供【公園、文化財担当】		
みずのとう 公園の整備	・公園拡張用地確保【公園、経理担当】 ・配水塔改修、公園再整備【公園、文化財担当】		
景観形成	・まちづくりルール導入、街並み・景観形成の誘導		
道路整備	・まち歩き回遊経路の歩行者空間改善（カラー舗装等）		
回遊の誘導	・まち歩き回遊ルート設定【都市観光担当】 ・案内誘導サイン設計・設置【広報、都市観光担当】		
	・ガイドマップ作成・配布【都市観光担当】 ・ボランティアガイド制度創設・育成【都市観光担当】		
魅力情報の 発信等	・都市観光集客戦略構築【都市観光担当】 ・PR誌・PRパンフレット作成・配布【都市観光担当】 ・PRイベント開催、メディア開拓【都市観光、広報担当】		

ハード整備
 ソフト施策

哲学堂公園及び哲学堂公園周辺都市観光拠点整備計画

序章. 計画策定の趣旨

1. 目的

中野区では、哲学堂公園・旧野方配水塔の歴史的・文化的価値を高め、これらを核とする都市観光拠点の形成に向けて「哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針」を平成27年6月に策定し、また、本年3月に改定した「中野区基本構想」及び、4月策定の「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」において、10年後に実現するまちの姿として“哲学堂公園をはじめとする固有の歴史や文化が観光資源となり、来街者が中野のまちを周遊しています”と方向付けた。

本計画は、それらを踏まえて、哲学堂公園周辺の歴史・文化の価値・魅力を磨き、より多くの来街者を集める都市観光拠点の形成を図るため、中野駅周辺から哲学堂公園エリアまでのまちづくりの方向性を定めるとともに、哲学堂公園及びみずのとう公園・旧野方配水塔の整備の具体的計画を定めることを目的とする。

2. 計画対象区域

右図に示す中野駅から哲学堂公園・旧野方配水塔周辺にかけての区域とする。

3. 目標年次

10年後の平成37年度（2025年度）を目標年次とする。

なお、平成32年（2020年）7月の東京オリンピック・パラリンピックまでに主たる整備の完了を目指す。

第1章. 哲学堂公園周辺まちづくり方針

1. まちづくりの目標

中野駅周辺から哲学堂公園エリアにかけて、哲学堂公園、みずのとう公園（旧野方配水塔）を中心に、蓮華寺境内（井上円了墓所）、中野通りのサクラ並木、新井薬師梅照院などの魅力のある地域資源を活用するとともに、哲学堂公園・旧野方配水塔の有する「近代化遺産」としての歴史的・文化的価値を保存・継承し、さらに一層磨いていく。これとともに、世界から来訪者が訪れる環境と受け入れ態勢を整備し、その魅力を情報発信して、歴史・文化を活かした都市観光拠点を形成する。

2. まちの将来像 「緑と歴史文化のなかで 心を磨く 哲学のまち・中野」

哲学堂公園は、物事の根本原理を追求する学問である哲学による日本人の新たな「ものの見方・考え方」が必要と考えていた井上円了により、哲学による精神修養の場として創設された。

物の豊かさから心の豊かさへの人々のニーズの変化や、国際紛争の激化、地球規模での異常気象など世界を取り巻く潮流のなかで、今まさに、精神的な充足感を求める心の時代に対応する「ものの見方・考え方や生き方」が求められており、哲学堂公園の存在価値は、今後ますます高まるものと考えられる。

このため、哲学堂公園を核として、歴史・文化と緑が感じられる落ちついた環境のなかで哲学と親しみ、哲学により心を養う文化が根づくまち＝「哲学のまち」を形成していく。

3. 中野駅周辺との対比を活かした魅力発信

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点である中野駅周辺と、歴史・文化・哲学にふれ、心の安寧を得る拠点である哲学堂公園エリアのコントラストを鮮明にすることによって、相互に引き立てあう関係を築き、「哲学のまち」をより魅力あるものとし中野の発信力を高めていく。

第2章. 都市観光拠点整備及び哲学堂公園エリア整備計画

1. 整備目標

歴史・文化を活かした都市観光拠点を形成するために、都市観光のアクセス拠点として賑わいの中心である中野駅、中核となる都市観光資源として哲学堂公園・旧野方配水塔を位置づけ、これらを結ぶルートの基本とした回廊を整備する。また、哲学堂公園エリアは、哲学堂公園、みずのとう公園（旧野方配水塔）を中心とした、魅力ある地域資源を活用して「哲学のまち」のコアを形成する。



2. 都市観光拠点整備

(1) まち歩き・回遊ルート＝「哲学の回廊」の整備

都市観光のアクセス拠点である中野駅周辺と哲学堂公園エリアを結びつけ、周辺の歴史・文化資源をネットワークするまち歩き・回遊ルート＝「哲学の回廊」を整備する。

「哲学の回廊」は、案内誘導の充実、モニュメントの設置、花木による演出など様々な工夫により「哲学のまち」を紹介し、人々を哲学堂公園へと導き、「哲学のまち」が色濃く感じられるような魅力づくりを行う。

(2) まち歩き・回遊の誘導

「哲学の回廊」を中心に多くの観光客などを呼び込み、まち歩き・回遊を誘導するための取り組みとして、案内誘導サインの整備、案内パンフレットの作成・配布、ウォークラリー等のイベント、まち歩き動画配信などを行う。

また、観光資源のボランティアガイドの育成し、まち歩き・回遊のバックアップを図る。

(3) 世界に向けた「哲学のまち・中野」の情報発信

インターネット、SNS等を活用した国内外に対する積極的な情報発信、多言語によるPRパンフレットやガイドマップの作製・配布による外国人対応、テレビ・雑誌等のメディア活用など、様々な手法を用いて哲学のまち・中野のPRを図る。

3. 哲学堂公園エリアの整備

(1) 将来の姿

哲学堂公園、みずのとう公園等の魅力が高まり、これと調和したうるおいのある落ち着いた住環境、土地利用が形成され、かつて風致地区に指定されていた優れた風致、景観が保全されている。

優れた歴史・文化資源を抱えるまちとして住民に愛着の心が育まれ、歴史・文化の都市観光の拠点として多くの来街者が訪れるまちとなっている。

(2) 土地利用方針

哲学堂公園、みずのとう公園、既存の歴史・文化資源を保全・活用するとともに、緑豊かな環境の維持・形成を図る。

中野通り、新青梅街道の幹線道路沿道は、緑豊かなゆとりある歩行者空間の創出、良好な街並みの誘導、住宅及びサービス施設等の複合的な土地利用の誘導を重点的に行う。

幹線道路の後背部は、ゆとりある敷地の維持、緑化の誘導等により、哲学堂公園などの歴史的資源と調和の取れた良好な居住環境の維持・形成を図る。

(3) 景観整備方針

哲学堂公園エリアは、哲学堂公園を中心に地域に根差した歴史的・文化的資源を活かし、これらの風致と調和した緑豊かな落ち着いた景観の維持・形成を図る。

旧野方配水塔の眺望保全とともに、かつての風致地区とされていた時代の武蔵野の原風景や、「哲学堂案内」の「哲学堂八景」のイメージを参考に景観改善に取り組む。

(4) 景観整備の手法

魅力ある景観の形成のために、地域のルール作りが不可欠となる。幹線道路沿道の複合的な土地利用や良好な居住空間の形成、新設道路沿道の用途地域のあり方など、基本的なルールは地区計画により定めることが考えられる。景観行政団体に移行する際には、景観法に基づく景観計画、景観協定などの手法を活用し、建築物の形態・色彩・意匠など、より細やかな規制を設けることで、緑豊かで落ち着いた景観形成を推進する。



第3章. 哲学堂公園整備計画

《哲学堂公園の価値・魅力》

○哲学の概念を表した世界に類を見ない造園空間である（東京都名勝）

○グローバリズムの考え方や普遍的な生き方の指針が示されている

○創設者井上円了の社会教育への想いが込められた精神修養的公園である

1. 整備の目標

井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元することを基本として、世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨くことにより、歴史・文化を活かした新時代の都市観光拠点の核を形成する。

2. 哲学堂公園の整備

（1）哲学堂77場の整備

哲学堂77場は、東京都名勝に指定されている歴史的文化遺産として、「哲学堂公園保存管理計画」（平成24年3月策定）に基づき、古建築物群の修復、保全、活用、園内の景観保全及び眺望の確保を行う。

古建築物群は、井上円了による「哲学堂案内」及び「哲学堂公園保存管理計画」に基づき、精神修養の場とするために井上円了が創建した当時の姿に修復、保全する。

哲学の概念に見える形で表現しながら円了の思想を伝えていた、創建当時の景観を回復させることを基本とし、個々の古建築物の個性を引き立たせながらも全体の調和に配慮しながら保全する。

（2）学習展示施設の整備

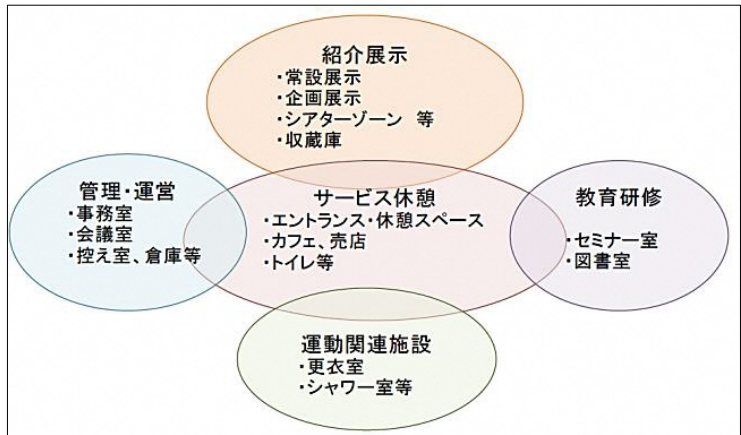
①整備の目的・ねらい

- 哲学堂公園に新たな魅力を付加する

○市民に哲学の見方・考え方を分かりやすく伝える
- 哲学堂と井上円了の思想を分かりやすく伝える

○歴史・文化に触れる機会を提供する

②導入する機能・内容



機能	内容
紹介展示	哲学堂公園及び井上円了の紹介・解説
教育研修	哲学講座・体験、小中学校教育との連携、地域の歴史文化の学習
サービス・休憩	軽食・休憩スペース グッズ・おみやげの販売
運動関連施設	受付、運動施設利用者便益
管理・運営	事務所機能、倉庫等

③学習展示施設の配置

学習展示施設の施設配置に関して、児童遊園、中野通り沿い（新青梅街道側）、中野通り沿い（下田橋付近）の3ケースを検討した。その結果、駐車場が隣接していること、文化財エリア・運動施設の両方にアクセスが良いこと、文化財エリアへの高質なアプローチ空間形成が可能であること、施工性・コスト面で有利なことなどの観点から、児童遊園へ配置することとした。

（3）情報提供・ソフト方策

77場の内容を来園者に分かりやすく伝えるため、解説板を更新し、ガイドマップとの連携・多言語化・モバイル機器への対応等に取り組むとともに、ボランティアガイドの育成によるガイドの充実を図る。また、歴史民俗資料館やみずのとう公園などの周辺資源と連携したイベントや講座を行い、エリア一帯としての魅力向上を図る。

第4章. みずのとう公園整備計画

《旧野方配水塔の価値・魅力》

○近代水道事業の歴史を示す歴史的価値の高い近代土木遺産である（国登録有形文化財）

○特徴的な意匠が地域のシンボル、ランドマークとなっている

1. 整備目標

土木遺産、文化財としての真正性を確立し、旧野方配水塔の価値を活かした公園としての性格を強化するとともに、補助第26号線（中野通り）の整備と合わせた一体的な空間づくりや公園機能の拡充を図ることにより、哲

学堂公園との役割分担のもと連携して都市観光拠点の核を形成する。

（1）旧野方配水塔の整備

修復を行う際は登録有形文化財としての外観に影響を及ぼさないことに配慮し、ランドマークとしての雄姿を保全していく。そのために、文化財としての保存及び活用方針を策定し、修復・整備を行う。

旧野方配水塔の魅力向上及び新たな魅力の創出として、配水塔に直接触れる、あるいは間近で見上げることのできる場所の整備、ライトアップによる演出等に取り組む。また、内部利用の可能性を検討する。

旧野方配水塔のランドマークとしての価値を保つため、特に中野通りの下田橋付近からの眺望を主眼に置いて、眺望を妨げる樹木の管理とともに、建物等の適切な規制・誘導を図る。

（2）公園用地の拡張について

みずのとう公園の南側に隣接する都水道局用地を拡張用地として想定し、段階的な取得、整備を図る。都水道局用地の南側については、まちづくりにおける配水塔の眺望確保のための高さ制限などによる誘導を図る。長期的には、哲学堂公園との連携強化を推進するために必要な土地としての取得も視野に入れて検討していく。

（3）情報提供・ソフト方策

配水塔が当時の住民の生活を支え、また上水道施設の普及に多大なる影響を与えた近代土木遺産であることをアピールするため、解説の充実及び情報発信を行う。また、文化財、ランドマークとしての魅力を伝えるため、哲学堂公園、歴史民俗資料館と連携して勉強会やイベントを開催する。

第5章. 事業化方策

1. 事業化方策

- ・「哲学のまち」実現に向け、庁内関係分野の横断的な連携を図る。
- ・地域の町会、自治会、商店会、事業者等と連携し、公民を挙げて都市観光拠点の形成に取り組む。
- ・哲学堂公園・井上円了の歴史的検証、学習展示施設の内容や哲学講座の実施など、哲学堂公園の事業は東洋大学との協働が不可欠であるため、より一層の協力体制による事業推進を図る。
- ・哲学堂公園エリアでは、住民と共にまちの課題と目指すべき将来像を共有し、協働によりまちづくりを検討し推進していくため、住民参加のまちづくり組織を立ち上げる。
- ・学習展示施設を哲学堂公園に新たな魅力を付加し、世界に発信するための中核施設とするため、哲学堂の風致と調和し、多くの人に親しまれるような魅力を持つ優れた施設整備を目指す。また、歴史民俗資料館との共同運営も視野に、博物館・展示施設経営の豊富な経験・知識を有する専門業者の活用を検討する。

2. 整備プログラム

区分	整備項目	前期 2016～2020年度					後期 2021～2025 年度
		2016	2017	2018	2019	2020	
哲学堂公園 周辺都市観光拠点整備	・PRイベント開催、世界に向けた情報発信						
	・案内誘導サインの充実、まち歩き・回遊ルートの整備						
	・ボランティアガイドの育成						
哲学堂公園 の整備	・古建築物（四聖堂ほか）の修復、園路・広場、案内施設等再整備						
	・その他古建築物群、構造物等の修復						
	・ガイド育成講座の強化・人材育成						
学習展示施設 の整備	・学習展示施設の設計・整備						
みずのとう公園 の整備	・配水塔保存活用方針の策定・整備、公園の設計・整備						
哲学堂公園 エリアのまちづくり	・住民説明会の開催、まちづくり組織の立ち上げ検討						
	・まちづくり計画、ルール等検討						
	・まちづくりルールの決定（地区計画等）						

ハード整備 ソフト施策 ▲ オリンピック・パラリンピック開催

■ 再生整備の目標

井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元することを基本として、世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨くことにより、歴史・文化を活かした新たな都市観光拠点の核を形成する。

■ 哲学堂公園の価値・魅力

- 哲学の概念を表した世界に類を見ない造園空間である
- グローバリズムの考え方や普遍的な生き方の指針が示されている
- 創設者井上円了の社会教育への想いが込められた精神修養的公園である

現在の公園は課題があり、価値・魅力を十分に活かすことができていない。

■ 哲学堂公園の課題

- 精神修養の場として不明瞭（空間的に分かりづらい）
- 施設が老朽化、バリアフリー対応の遅れ
- 価値・魅力に見あった管理がなされていない（植栽の繁茂、園路の凸凹）
- 哲学をテーマとする７７場とは性格の異なる施設・空間が混在する
- 哲学を十分説明できていない
- 多くの観光客を呼ぶ施設となっていない

価値・魅力の向上、課題の解決

■ 哲学堂公園の再生整備のコンセプト

哲学堂公園の価値・魅力と課題を踏まえた、哲学堂公園再生整備のコンセプト

1. 哲学堂本来の価値を磨き、向上させる。

- ・世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨く
- ・井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元する

2. 観光資源としての価値を高める。

- ・井上円了没後 100 年(2019 年)を契機として文化財的価値の向上を図る
- ・歴史・文化を活かした新たな都市観光拠点の核として整備する

■ 哲学堂公園再生整備の方針

コンセプトに基づく哲学堂公園再生整備の方針を以下の通り設定する。

①哲学堂 77 場を中心にした独自性のある庭園としての整備

②哲学の概念を解り易く伝える空間・施設の整備

③哲学堂の本来価値・魅力を取り戻すための空間・施設の改善

④井上円了と哲学堂に関する知識の掘り下げと普及

⑤都市観光拠点の核となる国の名勝指定

⑥哲学に関する学習・体験の場・機会の提供と情報発信

■ 主な整備項目

A. 77 場の整備

◎名勝に指定されている歴史的文化遺産として、古建築物群等文化財の修復、保全、活用、園内の景観の回復保全及び眺望の確保を行う。

◎文化財的価値保存の観点から、修復・復元は「保存管理計画書」に基き行う。

◎井上円了の記した「哲学堂案内」に基づく 77 場の巡路の復元を行う。

■回復（復元・修復）するもの

- ・哲学堂 77 場：古建築物群、石造、地象、植物、空間
- ・哲学堂 77 場を取り巻く景観：樹林、地形、水環境など
- ・哲学堂 77 場からの眺望：斜面地からの眺望、哲学堂八景（サインにより、創建時の眺望を想起させる）
- ・哲学堂 77 場の巡路：解説サインの改善による巡路の明確化

■整備スケジュール

年度	2018（平成 30 年度）	2019（平成 31 年度） （井上円了没後 100 年）	2020（平成 32 年度）
公園再整備			管理事務所解体 事務所跡地整備
学習展示施設整備		学習展示施設竣工	
国の名勝指定		意見具申 答申	

▲オリンピック・パラリンピック開催

B. 学習展示施設の整備

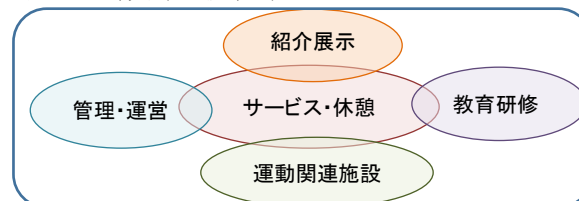
◎哲学堂公園の魅力を高め、哲学堂77場や円了哲学への理解増進等を促すための施設として、学習展示施設を整備する。

◎建替予定の管理事務所の機能も集約する。

■学習展示施設整備の目的・ねらい

- ・哲学堂公園に新たな魅力を付加する
- ・哲学堂及び井上円了の思想を分かりやすく伝える
- ・哲学の見方・考え方を分かりやすく伝える
- ・歴史・文化に触れる機会を提供する

■導入する施設機能イメージ



E. 「哲学の庭」の活用

- ◎「哲学の庭」は良好な景観の維持と共に、解説や情報提供の充実により哲学堂公園全体の魅力向上を図る。
- ・作品の紹介や哲学堂との対比・共通点等を解説サインや学習展示施設のコーナーで情報提供を行う。

C. 公園施設の整備

◎哲学堂 77 場や学習展示施設の整備と連携し、空間的な調和を図り、哲学堂公園の価値・魅力を高めるため、施設の改修等を行う。

- ・周辺部は 77 場と調和した庭園区域として整備する
- ・入口部は風格あるアプローチを形成し、77 場と運動施設との分離を図る
- ・運動施設については、スポーツ・健康づくりムーブメントの推進に向けて多様な活用を図るとともに、そのために必要となる施設の維持管理を行っていく。

D. ユニバーサルデザイン

◎施設利用の利便性を考慮し、文化財的価値の保存可能な範囲でユニバーサルデザインへの対応に取り組む

F. 情報提供・ソフト方策

- ◎解説サイン、学習展示施設を活用した情報提供、情報発信を行う。
- ・解説サインの改善によるモバイル機器対応など、情報提供力の強化を行う。
- ・哲学堂や哲学、歴史・文化観光などの情報発信基地とする。

＜文化財庭園ゾーン＞

A. 77場の整備

- ◇ 「保存管理計画」に基づく復元・修復を行う。
 - ・哲学堂 77 場の構成要素を復元・修復する。
 - ・哲学堂 77 場における景観を復元する。

C. 公園施設の整備

- ・劣化した舗装等の修復
- ・水系設備の機能回復による水質の改善
- ・景観を阻害する施設の樹木による遮蔽や意匠や材料による配慮措置

F. 情報提供・ソフト方策

- ◇ 哲学堂 77 場や井上円了の込めた想い、哲学を分かりやすく伝えるための整備
 - ・解説サインの充実
 - ・巡回ルート補助サインの設置（案内板・誘導標）

＜アプローチゾーン＞

C. 公園施設の整備

- ◇ 入口から文化財庭園ゾーンへの誘導を行う。
- ◇ 文化財庭園と運動施設の空間分離の役割を果たす。
 - a. 正面口 : 公園のメインの動線としての風格を表す。文化財庭園ゾーン利用の動線と運動施設利用の動線を整理する。
 - b. 桜並木 : 施設利用のための整備、桜並木の景観整備

＜学習展示施設ゾーン、児童遊園ゾーン＞



B. 学習展示施設ゾーンの整備

- ◇ 現在駐車場、売店、児童遊園があるエリアに学習展示施設を新設する。
 - ・哲学堂公園としてのイメージに統調した建物とする。
 - ・現在の管理棟は撤去し機能を統合する。
 - ・学習展示施設の周囲には前庭や文化財庭園へのアプローチを配置する。
 - ・アプローチは哲学堂 77 場への導入を演出する空間として整備する。

＜学習展示施設内の主な施設＞

紹介・展示	常設展示室/企画展示室/シアターゾーン/収蔵庫
教育・研修	セミナー室/図書保管・閲覧室
サービス・休憩	エントランス/売店/休憩スペース
管理・運営	トイレ/事務室/会議室/ロッカー室/倉庫など
運動施設利用	エントランス/更衣室/ロビー

C. 児童遊園ゾーンの整備

- ・ラジオ体操等の健康増進活動が継続可能な広場を配置する。
- ・運動施設利用者用の駐車場はゾーン外で台数や利用想定も踏まえて設置場所の検討を行う。

＜周辺庭園ゾーン＞

C. 公園施設の整備

- a. さくら広場はサクラによる魅力を高めるとともに、四季を通じて楽しめる明るい空間とする。サクラの名所としての魅力をいっそう高める。
- b. つつじ園は丘上からの眺望を意識しながら、樹木整理と修景植栽の追加を行う。
- c. 菖蒲池は菖蒲をはじめとした植栽による水景の改善を行う。
- d. 梅林は良好な景観を維持する。

E. 「哲学の庭」の活用

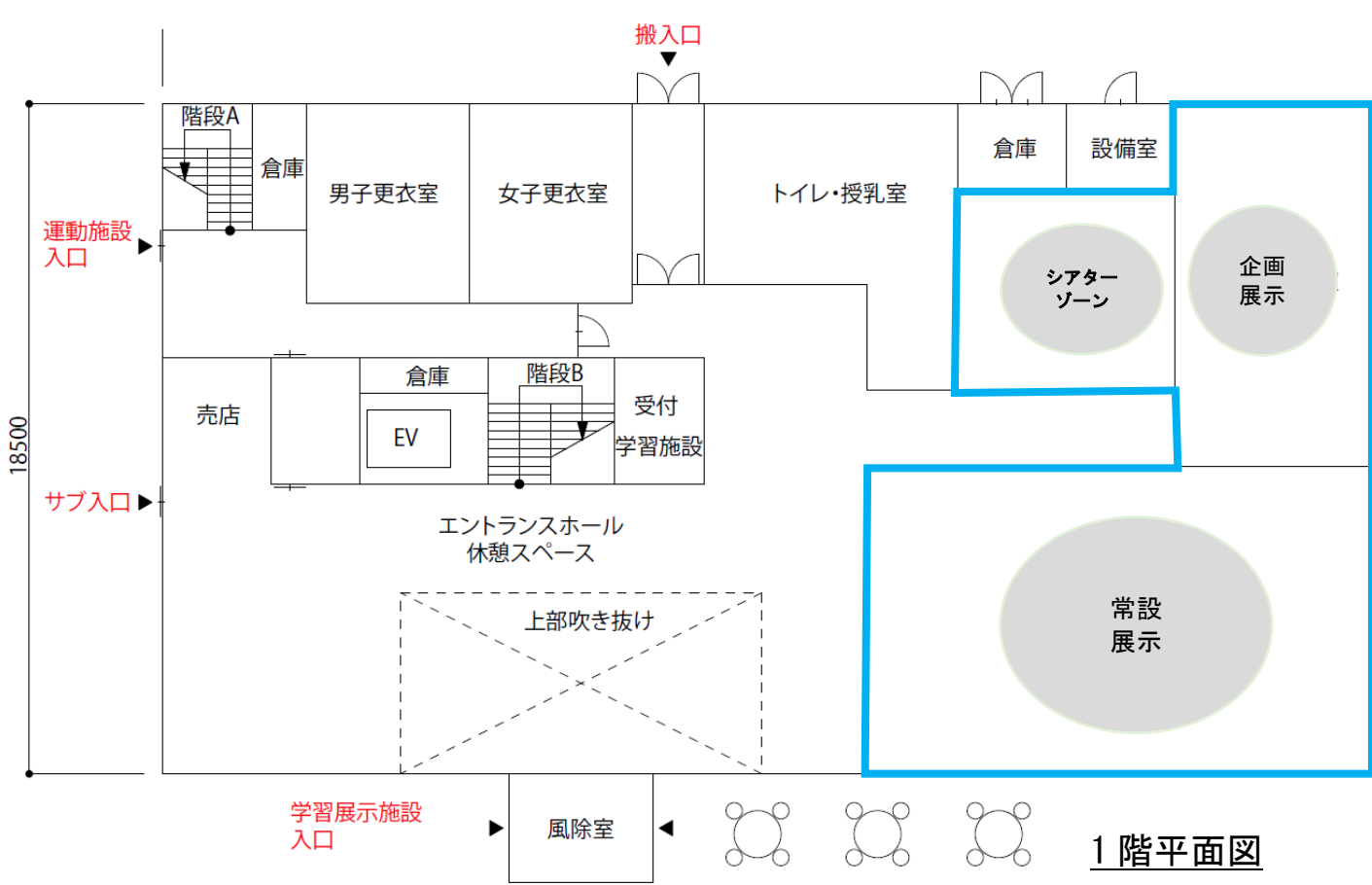
- e. 「哲学の庭」は良好な景観を維持する。また、作品紹介や哲学堂との関連を説明する解説サインを設置する。



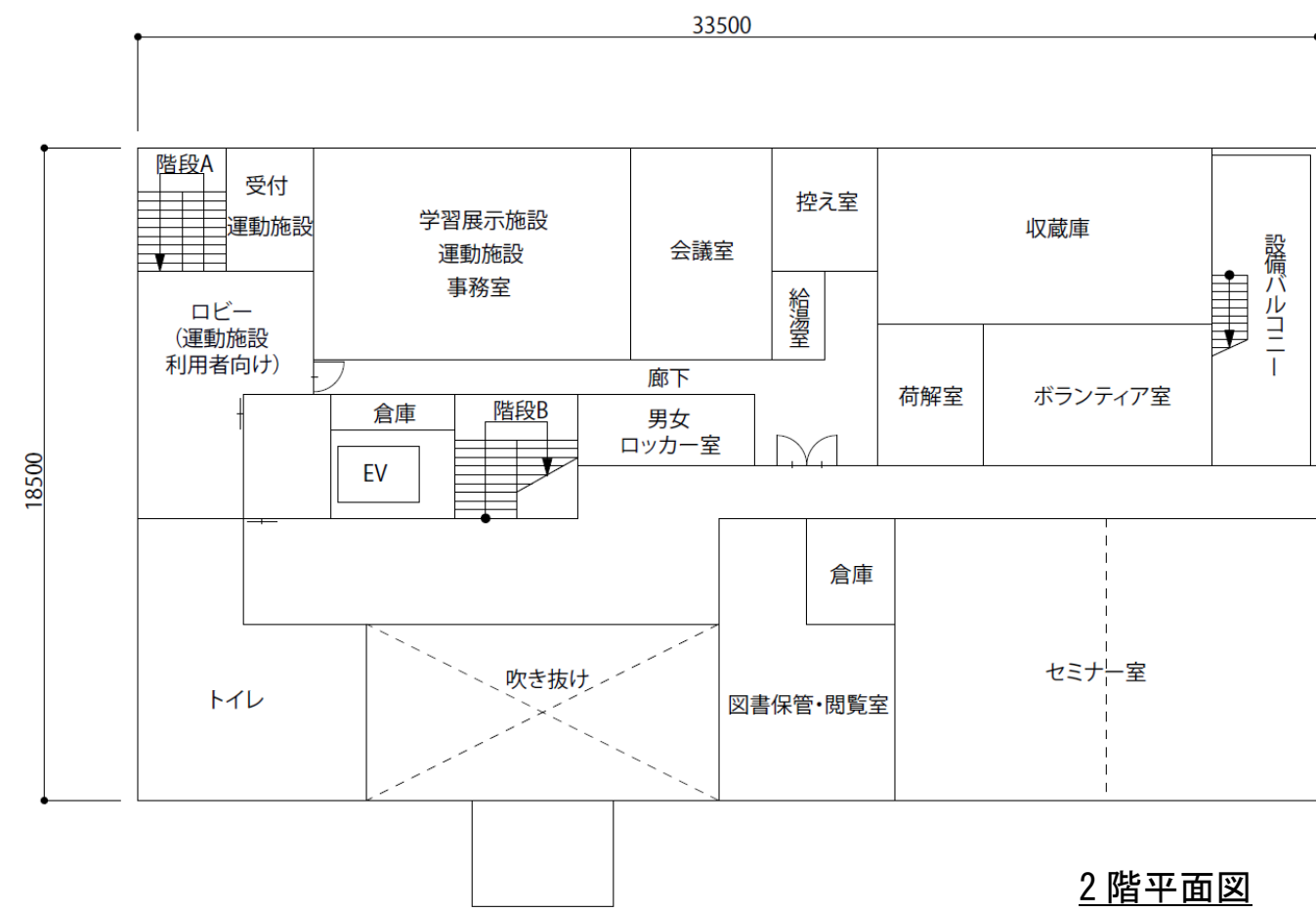
＜全体における整備＞

- 園路整備（C、D）
 - ◇ 劣化した園路舗装や階段の改修
 - ・必要な箇所には手すりなどを設ける。（文化財庭園ゾーンにおいては文化財的価値の保全を優先する。）
- エントランス整備（C、F）
 - ◇ 主要な入口において門柱や園名板などの設置、サイン整備、広場空間の整備
 - ・風格と哲学イメージ（テーマ性）の表現
 - ・案内板、解説板で哲学堂公園と哲学堂 77 場、井上円了について分かりやすく伝える。
 - ・利用者を園内へ誘うような空間を造る。
- その他の施設（C、D）
 - ・劣化施設の改修
 - ・景観阻害施設の改修、配慮措置
 - ・樹木整理

学習展示施設配置イメージ

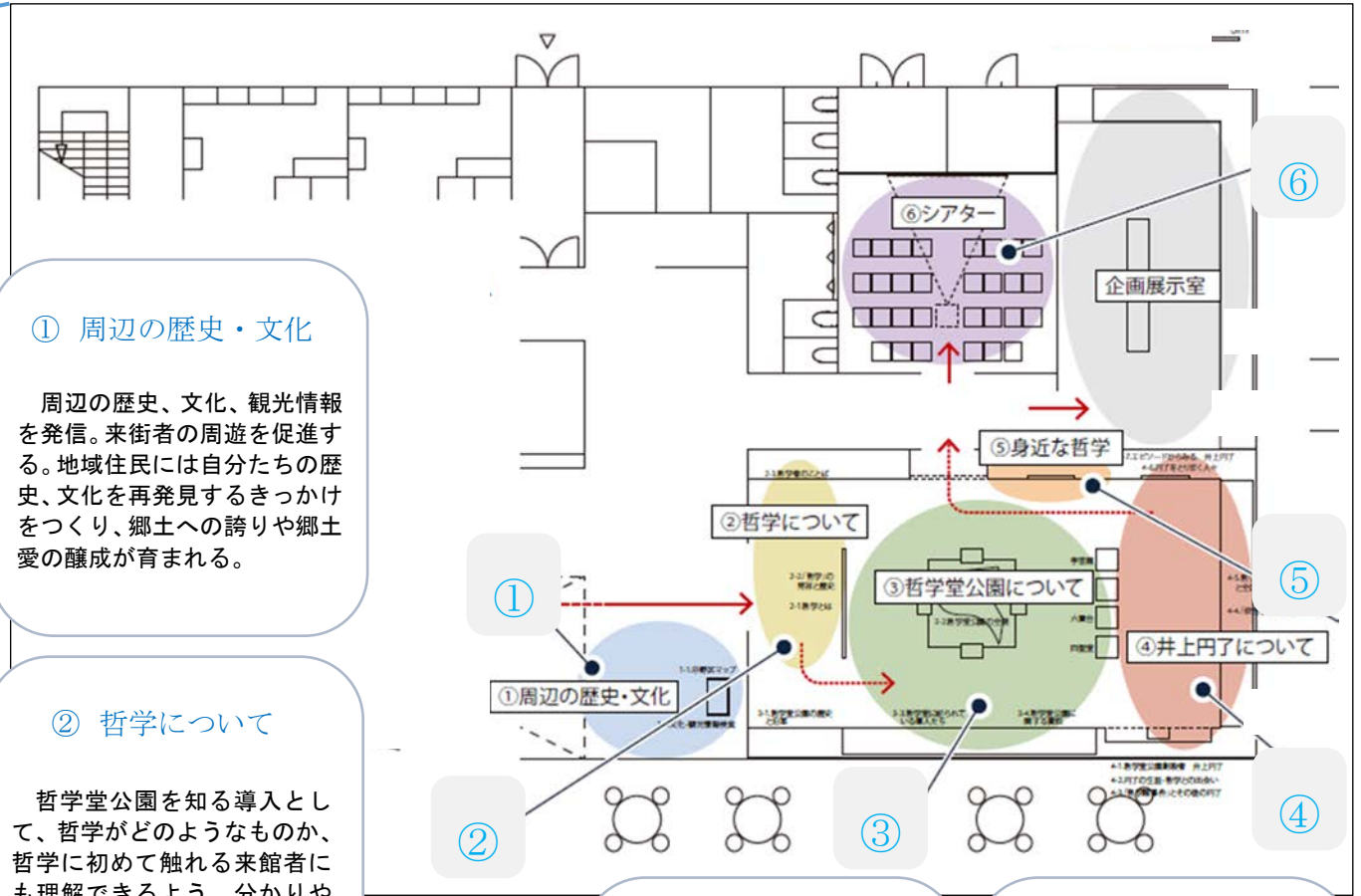


1 階平面図



2 階平面図

展示空間イメージ



① 周辺の歴史・文化

周辺の歴史、文化、観光情報を発信。来街者の周遊を促進する。地域住民には自分たちの歴史、文化を再発見するきっかけをつくり、郷土への誇りや郷土愛の醸成が育まれる。

② 哲学について

哲学堂公園を知る導入として、哲学がどのようなものか、哲学に初めて触れる来館者にも理解できるよう、分かりやすい解説を行う。

③ 哲学堂公園について

哲学をテーマとした世界に類を見ない公園であること、77場が表す意味、精神修養の場であること等を認識し、その価値・魅力を理解する。
また、「哲学の庭」の紹介、解説を行う。

④ 井上円了について

創設者井上円了の生涯と時代背景、思想を知り、哲学堂公園の存在意義や、現代の哲学にもつながる、ものの見かた・考え方を理解する。

⑤ 身近な哲学

生活のなかで活かせる哲学、身近なところにある哲学から、現代の哲学について分かりやすく紹介し、哲学に対する親近感を持たせることで、来館者が今後の生活を豊かにするため考え方を発見することを誘発する。

⑥ シアター

映像コンテンツによって哲学堂公園や井上円了、哲学についての全般的な解説を行い、展示内容の理解をサポートする。より充実した映像空間となるよう、コンテンツの追加が可能なシステムを構築する。

想定諸室規模

1階	面積
常設展示室	約120㎡
企画展示室	約60㎡
シアターゾーン	約30㎡
男女更衣室	約50㎡
売店・休憩スペース・エントランスホール	約170㎡
その他	約190㎡
2階	
収蔵庫・荷解室	約65㎡
ボランティア室	約25㎡
セミナー室	約100㎡
図書保管・閲覧室	約30㎡
事務室	約55㎡
ロビー(運動施設利用者向け)	約25㎡
会議室	約25㎡
控え室	約10㎡
男女ロッカー	約10㎡
給湯室	約5㎡
その他	約190㎡
合計	約1200㎡